

1-12 頁

最近のシェイクスピア映画に注目しながら、日本におけるシェイクスピア映画史、研究状況を論じた。映画研究から映像研究、映像文化としてもシェイクスピアが論じられることを黒澤明の 3 本のシェイクスピア映像を通して論じた。外国評により、黒澤明が外国でどのように受けとめられているかといった、異文化理解の観点からも指摘した。何よりも、映画を研究対象とすること自体、時代の変化に対応するものである。日本では研究対象としての映画の評価が低いことにも触れ、今後は映像研究としてあらたな可能性を秘めていることを論じた。(B 5)